



第729号

令和8年3月23日

題字は二代真柱様

大阪市北区池田町13-17

天理教はるのひ分教会

TEL・FAX

06-6358-2630

読者へ学びと読み

はるのひ館



▶はるのひホームページ▶  
▶QRコード▶  
▶1412年6月1日▶  
▶天理教本部09▶

## 『今から、私から②』

梅田で開かれていた『動き出す浮世絵展』に家族で観に行ってきました。

江戸時代の浮世絵をもとにして、四季折々の情景や花や鳥たち、そしてあでやかな着物姿が臨場感のある動く映像となってスクリーンや足元に映り出るので。

そのスクリーンのスリットをちよつとめくると次の部屋に入り、そこではまた別の映像が…。あらためて日本の自然の豊かさとそれらをこよなく愛し、歌や絵画に表していつでもどこでも楽しみなおす日本人の感性・表現のこまやかさに感じ入りました。ああ、すばらしい！

感動、感激！この感性のめくるめく陶酔！に日本人々は、昔からことに秀（ひい）でていたのです。でもその日本人でさえ、天然自然のあるいはまさに私たち自身一人一人のいのちとからだに息づいている力と技の神秘極まりなき競演に気づき驚くことはなかった…。それはなぜだろうかと考えます。

世界に優れた日本人の感性でさえ気づき、感動することができなかった《せかいといのちの真実》！それはせかいといのちすべてに渡って、《あつてあたりまえ》という皮膜がべつたりと

こびりつき覆っていて、この皮膜はどんな鋭い感性でも素通りしてしまい、取り払えなかったからです。何事もあつてあたりまえといふこの「あしきをはろうて、たすけ」て頂き、真底から生きていくには

《視点の転換》すなわち創られる立場、与えられる立場から、創る立場、与える立場、への

劇的転換がせひとも必要なのです。おやさま（天理教祖）の不思議な偉大さはここに由来します。

心の成人をめざして

「よろこび・つつしみ・はたらき」

## シリーズ『詰所・ほつぞう雑記⑮』

芝 光男

### 趣味は、新聞読み

私は、「趣味はなんですか」と聞かれると、「新聞読みです」と答えることにしている。詰所では朝日新聞、憩の家事情部では二紙が取られていて、その三紙の拾い読みである。主は朝日新聞だが、読むのは政治面ではない、政治の世界は魑魅魍魎(ちみもうりよう)妖怪変化が住むばけもの世界で嘘と化かしあいの世界なので、私は信用もしていないので、政治記事は基本読まない。読むのは、署名入りで書き手がしっかりしているエッセイか読み物などの情報類、そこでほとんど、ほぼ雑学である。私はおしなべて、ある種の「活字中毒」でもある。

そもそも私が本好きとなったのは父と兄の影響である。小学高学年のとき、風邪で寝込んだときに父が講談社の偉人全集の「野口英世」を買ってくれ、それを細部まで覚えこむほどに読んだのが最初であっ

た。それで医者に憧れ、初志貫徹していれば……と未だに後悔しているほどだ。それから読書にはまり、中学のころ、近くの古書店で買った下村胡人(1884-1955)の「次郎物語」たしか全五巻のぼろぼろの文庫本を授業中机の下で隠し持って全巻読んだ記憶がある。そしてまたそのころ、近くの市立の図書館に通っていた兄から「お前が本を読むようになってくれたら、こんなうれしいことはない」と言われ、本さえ読んでいたらいいのやと思え、それからほんとの本好きになった。

結婚して、家内は私と同じく国文科を出ていたので、本の話題はつきなかつたのは幸運であった。だから子供が大きくなってきてからは、家族で外に行くのは本屋ばかりであった。そのお陰で、うちの子供はみな本好きに育った。

私は大学を卒業するとき、ちょうどオイルショックで就職難のうえ同級生がみな教職につく中、幸い東京にあつた倒産寸前の出版社に就職できた(が東京の都会生活に嫌気がさし一年余で天理に帰ってきた)。しかし出版社勤務がきっかけとなり、布教の家北海

道寮を経て、天理教の出版社である「道友社」に入り、さらに養徳社に移り、現在まで編集出版畑一筋で進んできたわけである。

思えば自分で選り進んできたとは思えない。何かしらに引つ張られ進んできた一生のように思える。

## 『あんぱん』について

昨年のNHK朝のドラマ『あんぱん』は本当に優れた作品でしたね。脚本は中園ミホさんという方だそうです。私はずっとそのことを教えられました。

先の無謀で愚かな戦争を日本はなぜ起こしたのか、止められなかったのか？との難問に対して、もし庶民一人一人が、暴力はいけない、ましてや最大の暴力である戦争は自国のためとはいえども決して発動してはいけない、という生き方を明瞭に確立していれば、たとえ権力者が誘導しても、戦争は起きなかったのではないかと。という答えのように私は受け取りました。

『あんぱんまん』の作者・やなせたかしさんは、弟を海軍兵士として亡くし、みずからも中国大陸で兵士

として戦ったけれども、何とか生きて帰国できた。

戦後、知り合った幼馴染の妻のぶさんも、戦争中は国民学校の軍国教師として子供たちを鼓舞して戦地に送り出し、自分も被災したが、生き残った。

苛烈な戦争に積極的あるいは何となく加担した二人、結果的に何とか生き残った二人にとって、たくさんの犠牲の上に残された戦後という世界、人生をどう生きるべきかは、恐らくすべての生き残りの人々にとっても切実な課題だったに違いありません。

国のための戦争が正義だとするなら、相手の国にとつて、その正義は逆転し、結局正義同士の泥仕合、すなわち「万人の万人に対する戦い」を永遠に繰り返すしかありません。

「逆転しない正義」とは、アンパンマンに象徴化されるように自分を削つてでも相手のためによかれと尽くすことではないか？という答えに行き着いたのではないのでしょうか？

やはり世界中に平和を確立するには、すべての国、民族の庶民一人一人が生き方を明瞭にするしかない。と私は考えます。困難きわまりなしですが…。

## ☆お知らせ☆

☆3月26日(木) 9時 本部・月次祭

☆3月27日(金) 9時 本部・春季霊祭

☆3月29日(日) 18時 詰所祭

☆4月5日(日) 10時 女子例会・はるのひ会

☆4月11日(土) 前日準備ひのきしん

☆4月12日(日) 11時 月次祭

☆4月18日(土) 10時 本部・おやさまご誕生祭

☆4月19日(日) 9時半 おぢばがえりひのきしんと男子例会(詰所)

☆4月19日(日) 別席日

※別席場受付は、①午前8時～9時半 ②正午～13時半

☆4月19日(日) 9時半 本部・婦人会総会(車は教会8時出発)

☆4月26日(日) 9時 本部・月次祭

☆4月29日(水・祝) 全教一斉ひのきしんデー

8:30 はるのひ分教会出発→真田山墓地

お住まいの地域、各支部で参加して下さい

☆人生とは、生涯かけての心の成人・自分づくり

☆信仰とは人生観・世界観をみがきつづけること

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・修養科 ・講習

○修養科をおすすめしましょう！(毎月、25日までに申し込み)

・若い方=これからの人生の基礎固めとして

・年配の方=人生の美しい集大成のために